翻訳にあたってのヒント
その 91

◇　インパール作戦とチャンドラ・ボーズ

第二次世界大戦が末期に迫った昭和 19（1944）年にインド・ビルマ方面で「インパール作戦」という戦闘が、牟田口 廉也（むたぐち れんや）中将率いる日本軍（約 9 万人）・インド国民軍（4.5 万人）と、ウィリアム・スリム中将率いる英国・インド軍（約 15 万人）との間で展開された。この戦いにおいて、日本軍は戦死者 3 万名以上、戦病者 4 万名、五体満足で帰還できた日本兵はわずか 2 万名という日本軍側の大敗に至った。そして日本軍はこのインド国民軍のうち 6 千名（すべて志願者）しか戦いに参加させず、残りの 3 万 9 千名を温存させた。当時の日本軍はすでに劣勢に追い込まれつつあり、補給も物資もない（食料・医薬品・弾薬もあまりない）状態であったことから、兵站を無視した無謀な作戦、意味のない作戦といわれているこの作戦において日本軍は敢えてジャングルのなかを遠路はるばる行軍しインド方面に出撃した。何故か？それはこの戦闘が「インド独立運動を支援する」ために組まれた作戦であったからである。

当時、インド国民軍（Indian National Army、略号 : INA）は、「自由インド」「インド解放」をスローガンにして「自由インド仮政府」を樹立し、昭和 18（1943）年 10 月には、米英に宣戦布告を行っていた。だが日本の大本営は、当初、この作戦に大反対であったにもかかわらず、当時日本に滞在していた「チャンドラ･ボーズ（インド国民会議派議長・自由インド仮政府国家主席・インド国民軍最高司令官）」の必死の願いを聞き入れ、牟田口中将以下のビルマ駐屯隊の将官たちはこの作戦の意味も結果もわかった上でインパール作戦を敢行したのであった。約 3 ヵ月続いたこの戦いで、2 ヵ月経過した頃から、病気に冒され、怪我をし、食料もないやせ細った姿で日本軍の将兵はようやく潰走をはじめたが、英国軍は追撃してこなかった。騎士道を誇りとする英国軍の将兵が、半死状態になりながらもこの苦戦を戦いきったこの日本の将兵たちを殲滅するなどいう非情な精神をもてなかったからである。また、英国軍はこの戦いの勝利を無用に誇ることもしなかった。一方の日本軍の将兵は、自分が死んだとしても、みんなを護るためなら喜んで戦い死ぬという武士道精神をもっていた。さらに、餓鬼や幽鬼のような姿で街道を引き揚げる日本の将兵たちは、誰一人として、街道筋にある村や家畜、畑を襲うようなこともしなかった。

このことから、この戦いは、「英国の騎士」と「日本の武士」の戦いであったのだと言えるのではなかろうか。その後、ガンジーらの非暴力の行軍を経て、インドが独立を勝ち得たのもこの戦いによって魂を揺さぶられた宗主国が騎士道精神の英国であったからこそであろう。

さらに、　あの時（第二次世界大戦中）、日本人が戦わなければ、白人国家による全世界植民地化計画が完成してしまっていたであろう。しかし、これではいけないと日本人は立ち上がったのだ（当時は、世界各地の白人による植民地で有色人種が牛や馬といったような家畜同然の扱いを受けていたのだ！＝ 例えば、パンを地面に放り投げてそれを拾って食べろというような人としてあるまじき行為など！）。当時アジア圏では、タイも独立国家であったが、それはフランスとイギリスの植民地にはさまれた緩衝地帯として意図的に残されていたようなものであり、このアジアで自力で独立を守っていたのは日本だけであった。日本人が命をかけてこういった悪政に対抗したことによって、アジア諸国は勇気づけられ覚醒されて、次々と独立を勝ち取り、現在のような人種平等社会が形成されていったのである。あの時、日本が戦わなければ、日本も白人の植民地になっていただろう。さもなくば、何百年・何千年と続くかもわからない奴隷のような生活を我々日本人のみならず他のアジア人も、今でも強いられていたかもしれないのである。よって、日本が人種平等の社会を築くために貢献したという事実から言って、歴史的に評価されてもよいことだと考える。我々日本人は、我々の祖先がこうしたことが成し遂げられたことの一翼を担っていたという歴史上の事実に対して、愛情をもって接しなければならない。彼らは、国を守るために命をかけて戦ったのだ。あの時、戦っていなければ、今の我々の平和で豊かな生活は実現できなかったのだ。

我が祖先達に感謝し、この日本という国を誇りとし愛し続けていこうではありませんか、皆さん。

● Delhi chalo - Subhas Chandra Bose 〔 http://www.youtube.com/watch?v=EQZ_B8D86ms&feature 〕→ 英語字幕付き（with English subtitle）

このビデオの字幕を以下に書き起こしてみた。参照されたし。

◇ **チャンドラ・ボーズ語録（Remarks made by Chandra Bose）　:**

（チャンドラ・ボーズ　＝　インド国民会議派議長　＝　自由インド仮政府国家主席兼インド国民軍最高司令官　＝　インド独立の指導者）

インド　悠久の歴史をもつこの国は 19 世紀という激動の中、大英帝国に蝕まれていた。This country, India, with eternal history was undermined by the British Empire.　そうした状況下で絶望する国民を奮い立たせ、インドを独立へと導いた 1 人の指導者がいた。Under such situation, there was one leader who led India to independence.　チャンドラ・ボーズ。　Subhas Chandra Bose.　インドで指導者を意味する**ネタジ**の名で呼ばれた男。　The man who was called the name as **Netaji** which means a leader in India. 1897 年カルカッタの裕福な家庭に生まれたボーズは、ケンブリッジ大学に学び、インド高

等文官に合格した植民地エリートであった。 In 1897, Bose was born at a rich family in Calcutta. He was the colony elite who learned by Cambridge University and passed an Indian higher officials test. しかし、国民の現状を憂（うれ）えるボーズは高等文官の任官を拒否。 However, Bose refused appointment to higher officials. インドを独立させるべく政治の世界へと踏み出した。 And he embarked on the political world to make India independent. 国民会議。 Indian National Congress. マハトマ・ガンディー Mohandas Gandhi ジャワハルラール・ネルー Jawaharlal Nehru 着々とその存在感を増すボーズ。 Bose who increases an existence sense steadily しかし･･･ However … 深まる対立 The opposition which deepens 現在の方針ではインドにいつまでたっても自由は来ない Freedom does not come to India forever by the present policy. より強硬な手段への変更を！ It should be changed to the more radical movement. いや、今まで通り非暴力・非服従を貫けば必ずや自由を得られる。 No. When continuing the non-violence and non-compliance, we can get freedom certainly. 熱血の志士 Patriot of hot blood 沈着の哲人 Calm philosopher 急進派 vs 穏健派 The radicals vs The moderates そして迎えた 1939 年 1 月 January in 1939 国民会議議長選挙 INC presidential election 急進派候補ボーズ 1580 票 Radicals' candidate Bose 穏健派候補（ガンディー推薦）シタラマヤ 1377 票 Moderates' candidate Sitaramaya ボーズ議長選出 Bose was elected. 国民会議、新体制へ INC to a new order. 協力を要請するボーズ。 Bose requested cooperate with Gandhi. それを拒むガンディー。 Gandhi refused it. 動揺する国民会議。 INC was disturbed. 私もボーズと同意見だが、ガンディーなくしてこの国民会議はありえない。 I have the same opinion as that of Bose, but INC does not exist without Gandhi. 国民会議 ガンディー路線の継続を決議。 INC resolved continuance of the Gandhi line. 追い込まれたボーズ 議長を辞任。 Bose was driven into resignation. こうしてインドが揺れ動く中､同じく世界も揺れ動いていた。 While India was confused in this way, the world was confused likewise. そして運命の 1939 年 9 月 3 日 第二次世界大戦勃発。 The World War II broke out on Sep. 3, 1939. 遂に好機が来た。 Opportunity has come at last. いま全国民が決起すれば、必ずやインドは独立できる。 If the whole people uprising now, India can become independent certainly. マハトマ、今こそ大号令を。 Mahatma, give a great order now. この大戦で英国が疲労すれば、勝敗に関係なく独立は成る。まだ立つ必要はない。 When the British becomes impoverished in this war, India can become independent irrespective of victory or defeat. それに今立てば、英国を背後から刺すことになる。 And when uprising now, British will be stuck from the back dagger. 道徳的にも賛成できない。 I cannot also agree morally. 今こそ、最高の好機なんだ！ Now is the chance in a million! これを逃すことはできない。 I do not want to lose it. 今度ばかりは私 1 人でも立つ。 Even only myself, I

revolt this time.　ボーズ 遂に立つ。　Bose uprising at last.　学生・労働者・農民らと共に行動を起こしたボーズ。 Bose started action with students, laborers and farmers. 英国植民地としてインドが大戦に参加したことに対し抗議運動を展開。 He protested for India to enter in the war as a British colony.　それによって逮捕されると、獄中でのハンストで対抗して発病。 After being arrested, he did a hunger strike.　ボーズの死から暴動が起きることを恐れた英国は、自宅軟禁に切り替える。 The British was afraid that a riot would occur by Bose's dying, and changed his penalty to house arrest.　そして次なるボーズの策は･･･　And the Bose's next plan …　敵の敵は味方。 My enemy's enemy is my friend.　インド独立のためなら、悪魔とでも手を握る。 If it is for Indian independence, I ally with anyone.　ボーズは監視の目を逃れつつ、徒歩でアフガニスタンへ。 Bose went to Afghanistan on foot, escaping from a surveillance.　そこからボーズはソ連を経てドイツ第三帝国の首都ベルリンへ。　He went from there to metropolitan Berlin in Germany via the Soviet. ドイツ第三帝国 German third empire　共通の敵であるイギリスを討つため、インドの独立に力を貸して欲しい。 I want you to cooperate in Indian independence to destroy the common enemy British. インドが独立するにはあと 150 年かかる。 It takes 150 years more for India to become independent.　ドイツの冷たい反応。 German cut answer.　ラジオ放送での呼び掛け Appeal by radio. 英印軍捕虜への協力要請　Cooperation request to a prisoner of British Indian army.　成果の現れない日々･･･　He could not get good results … しかし But　日本参戦。 Japan entered the war.　躍進する日本。 Japan advanced rapidly.　私も日本と共に直接英国と戦う。 I fight against British directly with Japan.　ボーズは日本へ向かうことを決意する。 Bose has decided that he goes to Japan.　しかし独ソが戦争状態に入った現在、陸路で日本に向かうことは不可能だった。 But a war between Germany and Soviet had started, so it was impossible to go to Japan at a land route.　ならば海路で。 In that case at seaway.　制海権を英米に握られるドイツはボーズを潜水艦で移送。 German transported Bose by submarine.　先ずは北海を抜けアイスランド沖へ。 It went through the North Sea first, and went to the Iceland offshore.　それから警戒の薄い大西洋の中央部を南下。 It went through the Atlantic central part where guard was weak.　さらには喜望峰を回り日本軍の待つインド洋へ。 To the Indian Ocean where the Japanese military waited via the Cape of Good Hope. 日本潜水艦イ 29 号　Japanese submarine I-29　ドイツ潜水艦 U180 号 German submarine U-180　インド洋上決死のランデブー　Desperate rendezvousing at the Indian Ocean　暴風吹き荒れ鮫が群がる洋上で、ボーズは日本の潜水艦へと移乗、シンガポールへと向かった。　In a storm blows and a shoal of sharks, transfers Bose to a Japanese submarine. He went to Singapore.　シンガポールでボーズを出迎えたのは、インド国民軍。 It was Indian National Army that Bose was met in Singapore.　1 万

3000 人。 13 thousand solders. 英印軍捕虜や在外インド人からなる独立のために戦う志願兵部隊であった。 INA was an enlisted soldier unit which consists of prisoners from British Indian Army and overseas Indian. 他国から与えられた独立は、他国により簡単に奪われる。 The independence to which it was given from a foreign country is taken by a foreign country away easily. 我々が血を流し勝ち取らねば、インドは真の独立を得られない！ If we don't fight and bleed, India cannot get a true independence! 何人が生き残れるかは解らない。 I do not know how many people can survive. しかし我らの任務はデリーで勝利の行進をするまで終わらない。 But our duty does not end until triumphant in Delhi. 進めデリーへ。 Advance to Delhi. 進めデリーへ。 Delhi chalo. 1943 年 10 月 21 日 シンガポールにおいて自由インド仮政府樹立。 On October 21st in 1943, Provisional Government for Free India was established. ボーズ首班就任。 Bose assumed a premier. そして翌 11 月、アジア各国の指導者が東京へと集結した。 And next November, leader of Asian countries met together at Tokyo. 大東亜会議。 The Greater East Asia Conference. ビルマ共和国国家主席 バー・モウ Ba Maw, Head of State of Burma. 満州帝国国務院総理 張景恵 Zhang Jinghui, Prime Minister of Manchukuo. 中華民国行政院院長 汪兆銘 Wang Jingwei, President of the Republic of China. 大日本帝国内閣総理大臣 東條英機 Hideki Tojo, Prime Minister of Japan. タイ王国王族最高位 ワンワイタヤコーン殿下 Prince Wan Waithayakon, The Thailand royalty highest rank. フィリピン共和国大統領 ホセ・ラウレル Jose P. Laurel, President of the Philippine Republic. 自由インド仮政府首班 チャンドラ・ボーズ Subhas Chandra Bose, Head of State Provisional Government of Free India. 大東亜共同宣言を満場一致で採択。 The Joint Declaration of Greater East Asia Conference was adopted unanimously. ・・・・・・・

西欧はインドの富を吸い上げ、その富でアジアに植民地を広げた。 Europe plundered Indian wealth and expanded colonies into Asia. 自由なるインドなくして自由なるアジアの存在はない！ There is no free Asia without free India! 私個人の生死より重要なのはインドが自由になるという事実。 India becomes free to be more important than my life or death. これまでアジア諸民族の解放と集結の妨げになったのは西欧の帝国主義と強力なアジア勢力の欠如であった。 There were European Imperialism and lack of strong Asian power that it was obstruction of Asian release up to now. しかし今のアジアには西欧の帝国主義と決別しアジアの民族解放のために立ち上がった日本がいる。 But there is Japan that revolted for release in Asia now. 重慶の諸君よ、あなた方は今、アジアの敵と手を組み味方と戦っているのではないか。 Chongqing government, You ally with Asian enemies and fight with a supporter now. 自由なるインドに命を与えるため、諸君らの命を捧げてくれ！ Please offer your life for free India! 進めデリーへ。 Delhi chalo. 日本はよく戦った。Japan fought well. 必ずや復興できるだろう。

They would be able to revive certainly.　しかしインドの戦いはまだ終わらない。　But an Indian war has not ended yet.　私をソ連へ連れて行って欲しい。　I want you to send me to the Soviet.　次に来る時代にはソ連が英国の敵となることをボーズは予見していた。　Bose foresaw that the Soviet becomes a British enemy in the upcoming era.　しかしボーズがソ連に辿り着くことはなかった。　But Bose didn't arrive at the Soviet.　ボーズを乗せた飛行機が離陸に失敗、墜落炎上したのだ。　The airplane he took failed in a takeoff.　私は死の最期まで戦った。　I fought until the last moment.　我が同志も戦い続けてくれる。　My comrades keep fighting, too.　遠からずしてインドは必ずや独立できる。　While being close, India can become independent certainly.　1945 年 8 月 18 日、チャンドラ・ボーズ死す。　On August 18th in 1945, Chandra Bose dies.　享年 48。　48 years old of age at death.　人々は言う。　People said.　ボーズは死して尚、インドを独立へ導いたと。　Bose died and still led India to independence.　現在インドの国会議事堂には、3 人の肖像画が掲げられている。　Portraits of 3 persons are displayed in the Indian Diet Building at present.　左にインドの初代首相ネルー。　Nehru who is the first prime minister in the left.　右にインド独立の父ガンディー。　Gandhi of father of independence in the right.　そして中央には指導者ボーズ。　And in the center, **Netaji** Chandra Bose.　彼の遺骨は今、東京都杉並区の蓮光寺に安置されている。　His remains are enshrined in the Renkouji temple in Suginami ward of Tokyo now.

※　「**Netaji**」とは、インドで「指導者 ＝ leader」を意味する。

これにて第 91 回目終了。